

# ムーセ旧居の歴史

History of Mouchet House

- 1868 生野に鉱山局が置かれ、フランス人鉱山師ジャン・フランソワ・コワニエが御雇外国人として雇用され鉱山を調査、開発が始まる。
- 1871 フランス人地質家エミル・テオフィール・ムーセが雇用される。
- 1872 生野に御雇外国人官舎三棟、長屋二棟建設。うち1棟にムーセが暮す。
- 1878 神子畑鉱山に新たな銀鉱脈発見される。コワニエ解雇。
- 1880 ムーセ解雇。
- 1883 神子畑～生野間道路(16.2km)建設に着手。1885年完成。
- 1888 ムーセが暮した官舎を神子畑に事務舎として移築。生野鉱山、宮内省御料局へ所管が移る。
- 1890 生野鉱山、三菱合資会社へ払い下げる。
- 1896 以後、事務舎から診療所に改変、年代不明。
- 1955 診療所の増設。
- 1987 明延鉱山の閉山、神子畑選鉱場閉鎖。
- 1992 兵庫県有形文化財に指定される。
- 2001 保存修理工事に着手。2004年完了。
- 2004 神子畑選鉱場取り壊される。  
ムーセハウス写真館開館
- 2017 日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道～資源大国日本の記憶をたどる73kmの轍～」認定



インクライン(傾斜軌道)

Photo by Mineko Orisaku

# 神子畑を歩いてみよう!



## ムーセ旧居・ムーセハウス写真館 Mouchet House

兵庫県朝来市神子畑(佐囊1826番地1) TEL・FAX 079-677-1717  
<http://mikobata.com/>

- 休館日 ●  
水曜日・年末年始
- 開館時間 ●  
午前10時～午後5時
- 入館料 ●  
無料

朝来市ホームページ <https://www.city.asago.hyogo.jp>



朝文財29.11/10,000



Photo by Mineko Orisaku

## ムーセ旧居・ムーセハウス写真館 Mouchet House



日本遺産

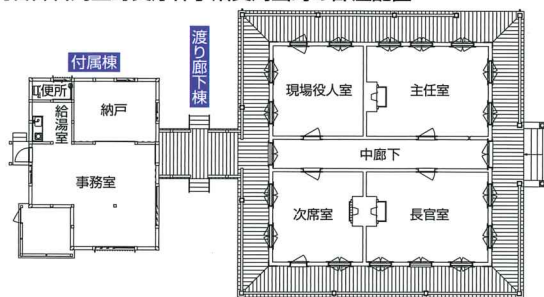
朝来市教育委員会

ムーセ旧居(旧神子畑鉱山事務舎／兵庫県指定有形文化財)は1872年(明治5)に生野鉱山外国人宿舎として建設され、1888年(明治21)に神子畑鉱山の開発とともにこの地に移設され、事務舎、診療所として利用されてきました。フランス人技師のムーセが暮らした建物と言われ、ムーセ旧居の名称で親しまれています。

コロンナル・スタイル(植民地様式)と呼ばれる特徴をもち、四方にベランダをめぐるし、外壁の4隅には石を積みあげたようにみせるコーナー・ストーン(角石)の技法が使われています。2004年(平成16)に移設後の姿に再建。付属の管理棟は生野時代の写真から、また、暖炉は発見された炉石を基に復原されましたが、暖炉飾りは明治後半の神戸の異人館を参考に整備されています。建具・窓枠なども当時の色に修復されました。設計者は明治政府が招聘した外国人技師のレスカスであったという記録が残っており、明治初年の建築文化を知る上で貴重な遺産となっています。

2016年(平成28)、床下及び外観の修繕を行いました。

■宮内省御料局生野支庁神子畑支局当時の部屋配置



■構造…木造平屋建方形造椼瓦葺／玄関ポーチ付  
■棟高…7.469m ■床面積106.09㎡



取り壊し前の神子畑選鉱場とムーセ旧居

Photo by Mineko Orisaku

「鉱石の道」は、明治から昭和まで鉱山で栄えた明延・神子畑・生野の産業遺産を巡るルート。明延鉱山で採掘し破碎されたスズなどの鉱石は、電車で神子畑へ運ばれ、神子畑選鉱場で選鉱され、次に鉱石輸送軌道で生野製錬所に運ばれ、電気炉で製錬され、銀やスズのインゴット(鑄塊)を作っていました。鉱石や従業員を運んだ軌道敷やインクライン(傾斜軌道)、神子畑と羽瀧の鑄鉄橋と鉱山道路など日本の近代化を支えてきた産業遺産は、今も栄華を物語るようにどっしりと地域に息づいています。鉱石の道をたどれば、鉱山男たちの語らいが聞こえてきそうです。



神子畑鑄鉄橋(国重要文化財)  
Photo by Mineko Orisaku



生野トロッコ道

●織作峰子の作品を展示

「朝が来る」と書くそのロマンティックな響きに誘われて朝来町をはじめ訪れたのはもう10年以上も前のことになります。「何もないが、植物の色が濃くて、空気が澄んでるな」というのが第一印象、でも、そんな朝来に惹かれたのも事実です。それ以後ご縁があり、機会あるごとに訪れ、カメラを抱えて町を見てきました。しかし、いつ訪れてもこの町には、変わることはない自然の豊かさ、人の温かさ、町全体の元気を感じています。

この「ムーセハウス写真館」は、私を楽しい世界に誘ってくれた朝来の写真を中心に展示しています。明治ロマン漂う神子畑の時の流れにまかせ、ゆっくりとご覧いただければ幸いです。

写真家 織作峰子



プロフィール

- 1960 石川県生まれ
- 1981 ミスユニバース日本代表
- 1982 大竹省二写真スタジオに入る
- 1987 独立
- 2007 大阪芸術大学写真学科 学科長 就任
- 2012 朝来市観光大使 就任

日本遺産の認定を受けました

朝来市は、2017年(平成29)4月、日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道～資源 大國日本の記憶をたどる73kmの轍～」の認定を受けました。

これは、朝来市から姫路市まで及ぶ、明治日本の近代化を支えた日本初の官営高速道路「銀の馬車道」と、生野鉱山や神子畑鉱山をはじめとする南但馬の鉱山群をつなぐ「鉱石の道」をテーマに、旅仕立てのストーリーが認められたものです。

この神子畑地域では、日本最古の全鑄鉄橋「神子畑鑄鉄橋(重要文化財)」、「神子畑選鉱場跡」とともに「ムーセ旧居(県指定)」が日本遺産ストーリーの構成要素となっています。

